

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173100718		
法人名	株式会社 彩の国		
事業所名	グループホーム 白虎ほーむ		
所在地	埼玉県熊谷市新堀8-7		
自己評価作成日	令和5年3月16日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、職員が共に個性豊かに過ごせるよう、活気あふれる事業所を目指しております。 ・「役割を持っていただく」「出来ることを一緒に行う」ことに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・「できることは一緒に」を方針に入居者にはそれぞれ役割を持っていただき、自分は必要とされている安心感のもと落ち着いた生活へのケアが行われている。管理者が変わったが、ケア実施には大きな変化はなく、社歴の長い慣れた職員による質の高い支援がなされている。また、「すべての行動には意味がある」との考えで、事業所新聞に写真をたくさん入れ、家族にも安心していただいている。 ・運営推進会議については、現在は実施されていないが、事業所の取り組みを文書で配布することや、集合形式についても検討されている。 ・目標達成計画については、事業所全体で防災意識を高めるため、避難訓練及び職員会議の中で緊急時の対応について周知させることに取り組み、職員が極力全員参加ができるよう工夫もなされたことから一部目標の達成は図れたものの、今後も継続して取り組まれていく方針とされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	<ul style="list-style-type: none"> 理念を職員休憩室に掲示している。 年に2回程、理念について会議時に伝えている。 	「できることは一緒に」の方針のもと、入居者が今できることを奪わないよう取り組まれ、ちょっとしたことで自分でやることで役割を持ち、必要とされていると感じていただいている。管理者も職員も認知症対応の資格を持ち、支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 散歩時にごみ拾いをしている。 事業所の看板作成を地域の方に依頼した。 	ゴミ拾い運動の際に挨拶や世間話をしたり、散歩時には犬の散歩をされている方と挨拶、交流を図られている。また、事業所向いの方が新しい看板作成に協力いただくなどのつきあいも継続されている。	コロナ禍の緩和により、以前培われていた地域との関わりを再構築し、つきあいの幅を広げる取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 事業所新聞に高齢者の健康等に関するコラムを掲載している。 施設の掲示板に掲載していた。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で運営推進会議を中止していた。 	運営推進会議は現在は未開催となっているが、形を残すことにすでに検討がなされ、文書による開催や家族や自治会長に声をかけ集合形式で実施することも考えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 制度に関する不明点等については随時連絡し、ご教示いただいている。 	市担当者とはケースバイケースで相談が行われ、入居者の居住地域についてなどへの問い合わせが行われている。また、これまでのコロナ禍における情報のやり取りなどはスムーズに行われるなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 年2回、「身体拘束・虐待防止に関する」研修を行い、周知している。 	毎月「身体拘束廃止委員会」を開催し議事録も作成され、年2回「身体拘束・虐待防止」に関する研修も行われ、気づかずに行ってしまうことなどを重視した内容で学び合い、指導がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 年2回、「身体拘束・虐待防止に関する」研修を行い、周知している。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部研修の内容の一部として触れているが、具体的な内容の説明や話し合いというものではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時期や状態変化等、随時連絡する際に確認している。	入居者からは「好きなものが食べたい」などの要望が出され、イベント時に提供するほか、家族から差し入れいただくなど反映されている。家族とはケアプラン作成時に「できることはさせてほしい」、「活き活きとした生活をさせてほしい」などの意見が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議時に意見等を聞いている。 その他、業務中に意見等を聞いている。	職員からの意見は言い易い環境にあり、ケアの方法や離設事故の対策などで意見を出し合い検討されている。イベント企画では職員が着ぐるみを着る提案があり、場を盛り上げ、楽しめるアイデアが出され、実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者が随時、就業環境等について報告、相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員に資格の取得や外部研修受講をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・大里広域圏内の事業所に随時、営業回りに行き、相談等している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実調時に困っている事や生活で望んでいる事を確認し、職員間で情報共有している。 また、入居後もこまめに声かけをし、情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族が困っている事や望んでいる事を確認し、協力してケアにあたれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・法人内の他事業所利用やその他のサービス利用も含め、関係機関と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・役割や出来ることを探し、自律支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況を毎月報告するとともに何か変わったことがあった際は連絡し、ケアの協力依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの場には行けていないが、家族や知人との面会、電話連絡は行っている。	生け花が趣味の入居者に花屋から花が届き、玄関に飾る花を活けていただいたり、料理人だった方からは本格的な出汁の取り方を教えていただくなど、馴染みのことができるよう支援をされている。昔のサークルや遠方の方からの電話の取次ぎなども行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ケアプランでも他者との関わりを持てるようなプランを記載し、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された方のご家族より、知人の介護の相談を受けたことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時には必ず本人の意向を確認している。また、うまく表現できない方でも言葉の中の思いを汲み取るようにしている。	「できるだけ接する機会を多くする」、「その人の行動の意味を探る」などの工夫を図ることで、気持ちを尊重し信頼関係を築き、思いや意向の把握に努められている。家族からの情報などからいろいろなことを試して反応を見て気持ちを推し量られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に生活歴等の聞き取りをしている。また、入居後もその方に合った生活が送れるよう、職員同士で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の申し送りで情報共有するとともに、会議時にも話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画作成担当、居室担当、役職者が本人と家族に意向を確認し、それぞれの意見を考慮して作成しています。	安全と清潔に過ごされることに着目し、生け花の指導や調理の手伝いなど、本人ができることを盛り込み、具体的でわかりやすいケアプランが作成されている。家族とは面会や電話で現状を共有し、意向を聴き取り、プランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録は職員が利用者一人ひとりに対して一つ以上記録するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員、本人、家族と話し合い、その都度可能な限りの対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍により、地域との関わりが薄れているが、散歩や庭へ出た際に近所の方と談笑することはある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望している医療機関に受診する際は可能な限り、家族に対応して頂いている。その他、必要な医療は協力医療機関に相談し、適切な医療が受けられるようにしている。	日常的には訪問診療と訪問歯科の利用で支援されている。かかりつけ医への受診は家族同伴が基本で、付き添いが困難な場合や状態を詳しく伝えたいなど必要時には看護師が同行に対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、状態等について話し合い、情報共有している。看護職だけの判断でなく、介護職の考えも汲み取り、本人が必要な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・看護師を中心に医療機関とこまめに連絡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人、家族と話し合っているが、地域の方との話し合いは行っていない。	入居時に事業所の方針としてできること、できないことを説明し、理解と同意を得られている。最期は入院される方が多いが、希望に応じて看取りの支援も行われており、緊急対応時の連携シートも作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故発生時のマニュアルを作成し、会議時に伝えているが、定期的ではなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難方法を職員は身につけられるよう、避難訓練を行っているが、地域との協力体制は不十分である。地域が行う防災確認の協力は行っている。	火災を災害の最重点に捉え、年2回夜間想定も含め、職員が全員参加する機会を設けることにも取り組まれている。ハザードマップの確認も行われ、まだ不十分だが災害発生時の近隣地域との協力体制づくりも検討されている。	事業所全体としての防災への意識の平準化と習慣化が重要と想定されることから、日頃の会議や研修、訓練を通して防災意識の向上に取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・その方に合った関わり方を意識している。また、会議時に共有している。	プライバシーの確保には十分気を配り、職員間で入居者のことを話すときは暗号化するなどの工夫も図られている。また、朝の整容や洋服選びも入居者自身でやっていただくなど、一人ひとりの尊重にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・その都度、本人に確認し、自己決定できるような関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	・利用者にとっての日課を作れるようにしているが、職員主体の日課というものは直接利用者に影響がないものとしている。 また、その日の心身状況により、本人にとって良い過ごし方を検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみに気を配り、本人の気持ちを大切にしているが、不十分なこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・誕生日の方に行事食の選択をしていただいたり、特別メニューの際には食材を切ったり、盛り付けと一緒にしていただいている。	日常は食材業者を利用し、イベント時にはお花見弁当やクリスマスメニューなどが提供され、誕生日には食べたい物を選んでいただいている。偏食の多い方にも家族と相談して対応されたり、パンの訪問販売などで好きなものを買っていただくなどの支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分摂取量をチェックシートに記入し、状態を把握している。また、個々の好み等を把握し、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・協力歯科医と連携し、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェックシートを定期的に見直し、本人に合った排泄パターンの把握に努めている。	排泄の自立への取り組みとして、トイレトーパーの置く位置やポータブルトイレの設置場所などを職員皆で考え、環境整備に取り組まれている。水分摂取量の把握にも努められ、習慣や入居者のペースにも配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食後にトイレに誘導するなど、生理的反応を意識して排泄ケアにあたっている。また、水分摂取量や食事等、排便に関係することを看護師とともに話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴介助の時間が午前、午後と設けているが、夜間浴に関しては勤務の都合上、行っていない。 その為、希望の時間に対応できているとは言えない。	入居者全員が湯船に着かれるよう工夫がなされ、同性介助にも対応され安心して入浴を楽しんでいた。入浴介助時には見えない位置に立ち、外に出てほしいという希望にも対応され、羞恥心への配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一斉の就寝・起床介助は行わず、一人ひとりのその時の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師、看護師の指示のもと、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・本人や家族から情報を集め、役割を持っていたくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物や散歩等は職員の付き添いにより調整している。困難な場合は家族に協力依頼をするなど、希望に添えるようにしている。 その日のうちに行うということではできていないこともある。	日常的に近隣の散歩や職員が付き添ってコンビニまで行き、買い物を楽しまれる入居者もおられる。初詣に出かけた際、自治会の方に車いすを介助していただくなどの協力も得られ、更に家族の協力で希望の場所への外出も支援されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自身で居室内で保管できる方に関しては所持され、パン屋の配達があった際などに買い物を買っている。 その他の方は家族の希望や家族との話し合いで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があった際は対応している。また、家族や知人から電話があった際には本人に出ている。 手紙についても出す際は代行してポスト投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花や飾り物を置き、季節を感じられるように配慮している。	季節感があり、食事作りの匂いや音など家庭的な生活感も感じられる共用空間が作られている。日当たりの良いウッドデッキで花や野菜を育てたり、集まって相撲中継を楽しむなど、居心地よく生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う利用者同士で関わられるよう、座席の位置を検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に馴染みのあるものを持ち込んでいただくようにしている。	使い込まれた鏡やテーブル、いすなどが持ち込まれるほか、自分で作った押し花の作品も飾られ、安心して過ごせる居室作りを支援されている。転倒防止のためつかまれる位置に家具を配置するなど、安全への工夫も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ等、使用頻度が多い場所にはマークを貼付し、わかりやすいよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム白虎ほーむ

目標達成計画

作成日: 令和 5年 5月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所全体の防災意識を習慣化できるよう、日頃の会議、研修、訓練を通して、より一層防災意識の向上に取り組むことが必要である。	事業所全体の防災意識を高め、災害時対策をより明確化していく。	・職員会議や研修、避難訓練を行う中で、全職員の防災意識、知識の向上を図る。 ・自治会の方の参加を依頼し、地域の協力も得られるようにする。	6ヶ月
2	2	コロナ禍であったため、地域との関わりが以前よりも消極的であった。	地域との関わりを再構築し、付き合いの幅を広げる。	自治会の行事に参加し、事業所の現状や協力をいただきたい内容についてお伝えする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。